

本試案及び観点解説（2010）の活用にあたっての留意事項

「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」及び観点解説の活用にあたっては、以下の点について留意する必要があります。

①指導の在り方や授業等を見直すためのツールである

「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」の各観点は、児童生徒のできる・できないについて評価するためのものではなく、児童生徒がキャリア発達を促すための基盤となる要素として指導者が意識し、共有すべきものとして作成しています。また、授業の改善および学習内容の一貫性・系統性を整理するためのフィルターとしての活用を期待するものです。

②連携・協働のためのツールである

「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」の各観点を位置付けることにより、授業や単元のねらいを絞り、指導者間で共通理解を図ることが大事です。また、各観点は家庭及び地域において共通理解を図るための視点にもなると考えられます。

③できる・できないだけでなく、「育成」の姿勢が重要である

キャリア教育で捉える「能力」は、abilityではなく、competencyです。competencyとは「ある課題への対処能力」のことで、「訓練によって習熟するもの」という意味を内包している考え方です。「できるかどうか」「可能性があるかどうか」という個人の現能力を重視する姿勢ではなく、「訓練で習熟させられる」「一緒に努力すればできるようになる」という『育成』の姿勢があります。キャリア教育の推進にあたっては、competencyの視点に立って指導・支援に当たることが求められます。すなわち支援の在り方が問われます。なお、各学部段階に示す観点は、生活年齢から当該学部において「育てたい力」として示したものであることに留意する必要があります。

④各観点にはつながりがある

「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」の各観点は系列として横につながりがあります。系列内の観点は、学部が進行すると切り替わるのではなく、積み上がっていくものとして考えたものです。児童生徒の実態によって、当該学部の観点の内容を取り扱うことが難しい場合は、下学部の内容を取り扱うことが考えられますが、当該学部において育てたい力としてcompetencyの考えに基づき、支援の工夫によって児童生徒の活動を保障し、実現を目指すことが望まれます。他に意思決定能力の各系列のように一連の活動としてまとまりがあるものにも留意する必要があります。

⑤各観点は4能力領域のいずれかに基づくものである

「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」の4能力領域に基づくものです。日々の取組における諸活動をキャリアの観点で位置付ける際に、どの観点到位置付くか分かりにくいときは、対象とした活動のねらいが「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」のどの能力領域の内容に該当するかを確認する必要があります。なお、すべての活動がキャリアの観点で位置付けられるのではないということにも留意する必要があります。

⑥観点解説に示した指導内容（例）はあくまでも一例である

観点解説に示した指導内容（例）はあくまでも一例です。同じような活動でもねらいのおさえどころによって、違う能力領域に位置付けられるものもあります。例えば「着替えをする」といった活動は、身だしなみに関することがねらいであれば、「人間関係形成能力」となり、着替えのための手順表等、手がかりの活用がねらいであれば、「情報活用能力」となる。また、特別な外出の際等にどの服を着るかを決めるということがねらいであれば、「意思決定能力」となります。④と同様に4能力領域の定義を踏まえた上で、対象とした活動のねらいがどの能力領域の内容に該当するか十分に検討し、確認する必要があります。

※なお、詳細につきましては、後日公開予定の研究成果報告書をご参照ください。